

第7回岡谷新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年11月10日（月）
午後6時から午後7時30分
会場：テクノプラザおかや
3階 人材育成研修室

次 第

1 開 会

2 県教育委員会挨拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

（1）「第6回岡谷新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）校地検討部会からの報告

（3）学びのイメージ（案）

（4）意見交換

5 その他

次回の予定

【日時】 調整中

【場所】 調整中

【内容】 学びのイメージ（案）の説明と意見交換

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

岡谷新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎座長

	区分	氏名	所属等	役職等		新構成員
1	自治体	早出 一真	岡谷市	市長		
2		宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長	◎	
3	産業界	宮坂 晃介	岡谷商工会議所	副会頭		新規
4		山田 昌義	(有) ニシキ精機	代表取締役社長		
5	学識経験者	広瀬 啓雄	公立諏訪東京理科大学	副学長		
6		岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科	教授		
7		坪谷ニユウェル郁子	東京インターナショナルスクール	理事長		
8	地域	胡桃澤 良知	英会話学校イー・トゥー・ゼット	校長		
9		太田 博久	(株) 太田屋	代表取締役社長		
10		笠原 新太郎	笠原書店	代表取締役社長		
11		竹花 顕宏	諏訪地域振興局	局長		
12	同窓会	山本 美保子	岡谷東高等学校同窓会	会長		
13		林 秀徳	岡谷南高等学校同窓会	副会長		
14	P T A	小坂 明香	岡谷東高等学校 P T A 会長	会長		
15		宮坂 善男	岡谷南高等学校 P T A 会長	会長		
16		田畑 幸司	諏訪 P T A 連合会 (岡谷市会長)	代表		
17	学校関係者	小林 俊男	諏訪校長会 (茅野市立玉川小学校長)	代表		
18		守屋 守	諏訪校長会 (岡谷市立岡谷南部中学校長)	代表		
19		佐藤 幸三	花田養護学校	校長		
20	統合対象校 関係者	井刈 謙臣	岡谷東高等学校 生徒代表	生徒代表		新規
21		大久保 碧依	岡谷東高等学校 生徒代表	生徒代表		新規
22		川島 幹大	岡谷南高等学校 生徒代表	生徒代表		新規
23		牛山 柚空	岡谷南高等学校 生徒代表	生徒代表		新規
24		倉坪 崇之	岡谷東高等学校	校長		
25		中村 龍馬	岡谷東高等学校	教職員		
26		藤澤 雅道	岡谷南高等学校	校長		
27		中村 和幸	岡谷南高等学校	教職員		

【事務局】

学校名						
岡 谷 東	今井 盛夫 (教頭)、中村 龍馬、能登 一葉、西澤 久美子					
岡 谷 南	藤澤 幹彦 (教頭)、中村 和幸、奥村 達朗、利根川 尚吾					
		所属等	役職等			
長野県教育委員会 事務局	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事			
	望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事			
	荻原 洋平	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事			

第6回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

資料1

日 時	令和7年7月22日（火） 午後6時～午後7時30分			
場 所	おかや総合福祉センター（諏訪湖ハイツ） コンベンションホール			
出 席 （敬称略）	早出 一真、宮坂 享、木下 敏彦、山田 昌義、、胡桃澤 良知、太田 博久、笠原 新太郎、竹花 顕宏、山本 美保子、林 秀徳、小坂 明香、宮坂 善男、田畑 幸司、小林 俊男（代理 野村 修治） 守屋 守、佐藤 幸三、齋藤 礼央、大坪 千紗、松原 康恭、外山 あかり、倉坪 崇之、中村 龍馬 藤澤 雅道、中村和幸（以上24名）			
欠 席 （敬称略）	広瀬 啓雄、岩間 英明、坪谷 ニュウエル 郁子、（以上3名）		傍聴	なし
事務局	岡谷南高校	藤澤教頭（事務局長）、奥村教諭、今井教諭		
	岡谷東高校	今井教頭（副事務局長）、能登教諭、西澤教諭		
	県教育委員会	原主幹指導主事、荻原主任指導主事、望月主任指導主事		
当日資料	次第、構成員名簿、第5回懇話会まとめ（案）、学びのイメージ（ポンチ絵）			

会議事項

(1) 第5回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 校地検討部会からの報告 (3) 学びのイメージ 説明

構成員から出された主な質問・意見(○報告及び説明等、・質問及び意見、→高校再編推進室回答)

会議事項について

(1) 第5回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ

事務局から説明。質問、意見なし。

(2) 校地検討部会からの報告

○部会長に宮坂岡谷市教育長を選任。

○校地検討にあたり、会議の進め方について再編推進室から説明。校地を選定するにあたっての観点について話し合った。

○敷地の広さや近隣住民への影響、部活の活動場所等、校地や校舎にかかわる環境として検討すべき項目を挙げた。

○学習活動を支える教育環境については、他の学校や地域との交流の利便性、周辺の学習環境、安心安全面、という観点が必要。

○今回出された意見をもとに検討する観点を整理し、必要な情報をまとめ、引き続き検討する。

(質疑応答)

・報告を頂いたが、それほど進んでいないということでは。学校がある場所のどちらかを主に使うか、もしかしたら別のところに全く新築で建てるとか、いくつかの選択肢があると考えられる。今の報告の中では具体的なお話はなかったが、今どのような状況にあるのか。

→会議の中で、校地を選定していくうえでの基本方針を4点説明。「現校地を原則として検討」、「校地は一つを基本とし併用は原則検討しない」、「校地検討会議及び懇話会での十分な意見交換を踏まえて、校地は県教委が決定」「跡地の利活用の方針」を了承された。

・今の4点によると、どちらかの学校を使い、使わない方はいずれ何かに利用していく、という認識でいいか。

→原則はその通り。しかし、現校地以外の県有地でふさわしい土地がある場合は、現校地以外もありうる。そのような県有地があるかは、県教育委員会でよく確認したうえで校地検討会議に示す予定。

(3) 学びのイメージ 説明

○育てたい生徒像、目指す学校像は資料通り。

○これらの学びを実現するため、地域の皆さんとともに学ぶ地域と連携した学びを充実させていきたい。

(質疑応答)

・イメージ図の各種学校の記載について説明してほしい。各種学校に特別支援学校も入るのか。

- 各種学校は幼保小中高大、また「おかやまちじゅう学園化構想」をイメージしている。もちろん特別支援学校も含めて、今後どこと連携ができるか考えていきたい。
- ・「学び手」という言葉に込められた意味は何か。なぜあえて「学び手」としたのか。
- 学校で学ぶ、また学校で学びながら生涯にわたって人として学び続ける、学ぶ姿勢を持ち続けてほしいという願いが込められている。
- ・自己の生き方をフレキシブルにデザインできる人とあるが、ここをもう少し説明してほしい。
- 多様な生徒がいる。1つの形にとらわれず様々なやり方で自分を考えていかれるようにと考えている。
- ・何度も会議を重ねて、その意見が生かされていると思うが、特徴的なもの、岡谷だからという特徴が見えない。このイメージの中で、一番の売り文句、例えば生徒を募集するときに「こんな学校だからぜひ来てほしい。」という時のキャッチフレーズがないのでは。
- 今までの懇話会のキーワードをもとに、今回初めてイメージ図にまとめた。特徴については今後も検討の余地があると考えている。今後の意見交換などから岡谷らしさを加えていきたい。
- ・デジタルスタンダードとは何か。どういったものがデジタルスタンダードなのか。
- あえて ICT や情報技術という言葉掲げなくても、当たり前のように使いこなせるということ。
- ・目指す学校像のところにある、地域の資源を生かした、学びの連続性とはなにか。
- この言葉の背景には、岡谷のまちじゅう学園構想がある。地域にあるいろいろな資源を、小学校に入る前から、そして小・中・高、更には大学へと、その資源をいかした学びがつながっていくことをイメージしている。

(意見)

- ・「おかやまちじゅう学園化構想」を重要なものにとらえていただき、非常にありがたい。一方で岡谷ではない子ども達もいるため、そのような場合に対応できるようにすることが、これからの検討課題だと考える。
- ・学校像のイメージの部分で、学びラボが真ん中にあるが、やはり中心にあるのは子ども達だと考える。ぜひ高校生に今回の感想やこのイメージ図をみてワクワクするか、意見を伺いたい。
- ・中学校の立場で言うと、高校選択をする中学生は、やはり学校の魅力はもちろんだが、出口をどう考えるかではないか。岡谷新校で学びを深め、それをどのような形で将来につなげていくのか、それを視野に入れてほしい。
- ・OKAYA⁺ (AI を用いた学習システム) が多様な学びの1つのツールであると説明があった。それをふまえ、探究県長野というのが県の教育計画の中にも示されており、探究学習が高校だけでなく小・中学校でも行われている。それらをぜひつなげて欲しい。また、高校生が小学生や中学生に学ぶ機会、もちろん逆があってもいい。様々なきっかけの中から興味関心を、様々な年代の視点で見ることにより学習が深まったり、または自分の行きたい道が広がるといいと思う。
- ・保護者の立場とすると、探究などでいろいろな事を学び、その中からこういうことをしたいんだ、という夢を持つ人を育てる学校にしてほしい。
- ・並行して岡谷諏訪総合技術新校の懇話会にも参加しているが、総合技術新校は起業家を育てるとか、ものづくりなど、何を学ぶかが子ども達にダイレクトに響く。やはり普通科はイメージしづらいが、スポーツや芸術などといったワードを入れるとよい。
- ・部活や生徒会活動にもスポットをあて、生徒が主体になって動くという強みもあると思う。
- ・2校にはそれぞれ違った良さや特色がある。お互いの良さを引き出しつつ、高校生が主体的に地域や社会づくりに関わって行けるような学校になってほしい。

その他

【次回】

日時・会場ともに調整中

学び・みらいを選びとる自立した学び手を育てる高校

育てたい生徒像

- 多彩な視野で物事を見、豊かな発想と確かなジブンをもって自己の生き方をフレキシブルにデザインできるひと
- 様々な人々との関わりを通じてお互いの価値観を認めながら、生涯にわたって学び続けられるひと

目指す学校像

- 多様な学び方を通じ、生徒が自らの生き方・あり方を探しつつ、個々の価値観を認めあえる学校
- 興味や関心を深める探究的な学びの中で、成功だけでなく挑戦を評価できる、生徒が安心して試行錯誤できる学校
- 地域の資源を生かした学びの連続性を通して、他者と協働しながら将来と地域・社会のみらいを創造できる学校



学びのイメージ 策定スケジュール（仮）

資料3

第8回以降の回数及び内容はあくまでも予定です

◎新しい学校の中身

第8回：地域連携
第9回：学びの魅力づくり

学びのイメージ
完成

新しい学校の形

◎共通理解

第1回：懇話会の趣旨説明
第2回：2校の特色・学び
第3回：全国の先行事例

第10回～：

- 募集開始（開校）年度
- 活用する校地・校舎
- 設置課程・学科及び開校時に
想定する募集学級数

◎育てたい生徒像・目指す学校像

第4回：生徒像・学校像 グループワーク①
第5回：生徒像・学校像 グループワーク②
第6回：生徒像・学校像（事務局原々案）
第7回：生徒像・学校像（事務局原案）

